

キャラクター名
ファイブ

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	UGNエージェント
	キュマイラ		年齢	見た目26歳	性別
オプション					
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	40%
出自	転生体	経験	過酷な環境	邂逅	夢の中

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	6	1	1			8	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	7		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	8r+8	0	23		素手攻撃力-5
	白兵	8r+8	0	32		飛礫攻撃力4
80	白兵	8r+8	0	48		素手-5
	白兵	8r+8	0	57		飛礫攻撃力4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN	
コネ: 情報屋	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
屍人	P	N		
ファイブ	P 信頼	N 恐怖		
てんごくくん	P 愛	N 偏愛		
百目鬼和佐さんと暮戸 羽墨さん	P 好奇心	N 脅威		
鬼辻 単二郎	P 信頼	N 憤懣		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	基+5	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: EA134、衝動判定ダイス+Lv								
オリジン: ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: EA134、そのシーンの間エフェクト使用判定のあらゆる達成値+Lv								
コンセントレイト: キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
獣の力	7	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: EA58、白兵の攻撃力+ [Lv×2] する								
獣王の力	1	3	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果: BC60、獣の力と使用。効果を [Lv×4] に変更。								
飛礫	1	2	メジャー	20m	単体	対決	-	
効果: EA60、射程20m、攻撃力4、同エンゲージ不可								
フルパワーアタック	6	4+1	セットアップ	至近	自身	自動	80	
効果: EA61、そのラウンド中の攻撃力+[Lv×5]、行動値が0になる。								
復讐の刃	2	6	オート	至近	単体	対決	-	
効果: EA60、リアクションの直前に使用。リアクションを放棄することで白兵攻撃を行う。C値-Lv(下限7) 対象はリアクション出来ない。								
増腕	3	2	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	ピュア	
効果: EA62、対象を範囲(選択)にする。								
クイックダッシュ	1	4	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: EA130、戦闘移動を行う。								
魔獣の証	1	4d10	オート	至近	自身	自動	120	
効果: EA62、重圧でも使用可。戦闘不能を回復し、HPを [Lv×10] まで回復する。								
獣の王	1	4	メジャー	武器	単体	対決	100	
効果: EA61、対象はリアクションを行えない。								
巨獣の爪牙	1	2d10	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果: RW36、メインプロセスを2回行う。すでのによる白兵攻撃のみ。								

一人称: おれ 二人称: 君、お前
 口調: 目上の人には敬語、同じ年くらいの人には～だよ、～だね。～なの。とか優しい感じの言葉使い。
 性格: 人間不信のお人好し。押しに弱く気も弱い。情緒が不安定でよくおかしくなる発作がでる。

「嫌な予感」というものをよく感じていた。
 何の皮でできているのかわからない古い本だとか、なんだか古い伝承のある村でやるお祭りだとか、顔のよすぎる知り合いだとか。
 怪異に対しての無意識下の直感。第六感とでもいうのだろうか。
 そんな危険信号が告げていようと、それにも勝る好奇心。探索せずにはいられないものだ。
 その好奇心は身を滅ぼし、俺はもう二度と正気には戻らないはずだった。

でも俺は再び目を覚ました。長い悪夢を見ていた感覚。いや、もしかするとその悪夢はいまだに続いているのかもしれない。
 そんなことを感じようと感じまいとお腹はすく。
 疑問は尽きないが、生きていくために今日も働かないといけな。
 レジカウンター越しの男性は、なぜだかとてもイライラしている様子だ。ふと俺と目が合う。自然と見下す形になってしまう。

なんだか「嫌な予感」がした。

人間のレネゲイドビーイング。細かく分けると直感や第六感などの感覚。
 「ファイブ」という精神的に死んだ一人の人間の中にレネゲイドが宿り、それがその宿主の記憶を読み取り再現した。
 自分がなやらレネゲイドというものらしいことに気づいたが、どうしようもないのでバイトに行っている。
 やっぱりなんか事件に巻き込まれ、バイトもくびになって絶望していたところ小佐古支部の支部長、半田半蔵に話を聞いてもらいそのまま小佐古へ。

